

第1章 3. ローマ世界 a. ローマ共和政

イタリア半島[1 ティベル]川のほとりに成立した[2 ラテン]人の都市国家ローマもアテネと似た経過をたどって民主政が進展していった。

前7世紀に形成されたローマは[3 前6]世紀に[4 エトルリア]人の王を追い[5 貴族]中心の共和政が成立した。広い土地や大量の[6 奴隷]の所有する貴族は、その経済力を背景に官職を独占していた。これにたいし、平民たちは[7 重装歩兵]戦術での活躍を基礎に政治参加を要求、貴族との対立を深めた。そして前5世紀初頭の聖山事件の結果[8 護民官]や平民会が設置され、前5世紀中期最古のローマ法とよばれる[9 十二表]法が制定されて市民の権利が明確化され、前367年の[10 リキニウス=セクスティウス]法を経て、[11 前3]世紀初の[12 ホルテンシウス]法で[13 平民]の権利が拡大、民主政が確立した。

しかし、その後も貴族や裕福な[14 平民]からなる閥族が政治の実権を握り、かれらを主な構成員とする[15 元老院]が共和政ローマの最高機関でありつづける。

共和政(制)…君主を置かない政治政体をいう。共和制を取る国家のことを共和国という。共和制では、国家の元首(現在では「大統領」という肩書が一般的である。)は君主ではなく、何らかの選挙によって選出される。

君主政(制)…君主が支配する統治形態(政体)であり、君主制の国を君主国(帝国、王国、大公国、公国、首長国等)、共和制の国を共和国と呼ぶ。君主号によって、帝制(帝政)、王制(王政)などと呼ぶこともある。(王の支配する国→王国・皇帝の支配する国→帝国)

民主政(民主主義)…個人の人権である自由・平等・参政権などを重視し、多数決を原則として意思を決定することにより、人民による支配を実現する政治思想。

①前7世紀 都市国家ローマ=[16 ラテン]人がティベル川の畔で建国
→前6世紀 エトルリア人の王を追い[17 貴族](パトリキ)中心の[18 共和]政へ

最高官職=[19 コンサル](執政官)…任期1年・2名
非常時には[20 独裁官(ディクタトル)]をおくことができる
最高機関=[21 元老院]→貴族出身の終身議員からなる会議、コンスルを指導

②[22 重装歩兵]戦術採用→[23 平民](プレブス)の発言力増加→[24 身分闘争]の激化
ア)前5世紀初 聖山事件…[25 護民官]、平民会の設置

護民官…26_平民出身で、元老院やコンスルの決定に拒否権をこうしできる役職。_____

イ)前5世紀中期 [27 十二表]法制定→28 最古のローマ法、慣習法を成文化、市民の権利明確化
ウ)前367 [29 リキニウス=セクスティウス]法→[30 コンサル]の1名を平民とする
エ)前3世紀初 [31 ホルテンシウス]法=[32 平民会]決議を国法しての効力を与える
→平民と貴族の政治的権利は同等となる=33 民主政の確立

③政治の実権…[34 閥族]=貴族+裕福な平民

b. ローマの発展と内乱

民主政の発展はローマのイタリア半島征服と並行してすすみ、ローマは支配下に置いた各都市を[36 分割統治]とよばれる巧みな支配下に置いた。

[37 前3]世紀中期、イタリア半島全土を制圧したローマは、地中海の覇権をめぐる3度にわたりカルタゴと戦った。これを[38 ポエニ]戦争という。(前3~2世紀)。この戦争の過程でローマは海外領を獲得、つづいて東地中海に進出、ギリシアや[39 マケドニア]を征服、前2世紀末ほぼ地中海全域を支配し、広大な[40 属州]を獲得した。

こうした過程で[41 重装歩兵]として戦場にかりだされた平民たちは没落、[42 奴隷]を用いた大農場経営[43 ラティフンディア]の発達のなかで土地を失い、首都ローマで[44 パンと見世物]を求める無産市民となっていった。他方、属州総督や[45 徴税請負人]などとなった有力者(閥族)はいっそう富を蓄積していった。

①前3世紀中期 イタリア半島全土を制圧→[46 分割]統治の原則で支配

分割統治…ローマは服属した[47 イタリア半島]内の諸都市と同盟を結んだが、その際、ローマと同等の[48 市民]権を与える植民市、自治権を与えたが投票権は与えない[49 自治]市、市民権を与えず軍役に課した[50 同盟]市に分け、待遇に51_差別_を設けて、団結や反乱を防ごうとした。このような支配の原則を[52 分割統治]という。

②ポエニ戦争…3回にわたって[53 カルタゴ]と戦う→[54 地中海の覇権]を握る

ポエニ戦争…前3~2世紀、3度にわたり[55 北アフリカ](現在のチュニジア)にあった[56 フェニキア]人の植民市[57 カルタゴ]との間の戦争。[58 シチリア]島などを海外領土の獲得をめぐる戦争であったが、[59 地中海]の海上貿易の覇権をめぐる戦争でもあった。

第2回ポエニ戦争では、名将[60 ハンニバル]率いるカルタゴ軍がイタリア半島に侵入、ローマは崩壊の危機に直面した。この戦争とそれにつづく征服戦争によって、ローマは広大な[61 属州](征服地)獲得、地中海を支配するに至る。

※ラティフンディア…古代ローマの奴隷を大量に使用した[62 大土地所有]制。ポエニ戦争以降、海外から大量に流入した[63 奴隷]を使用し、没落した[64 市民]の土地を吸収した貴族や富裕者の果樹栽培や牧畜経営を中心に発達した。イタリア半島だけでなく属州にも普及、自由農民の没落を促進した。

※属州…ローマが獲得したイタリア半島以外の[65 征服地]のこと。行政官を派遣して統治、生産物の1/10を国庫に収納した。知事には高官経験者、徴税請負人には騎士=富裕市民が就任し、属州を私有財産化して私腹を肥やした。

※パンと見世物(サーカス)…没落した市民たちは土地を失い[66 無産市民]となり、都市[67 ローマ]に流入し、政府などから食事などの提供を受けた。有力者は属州で手に入れた財産から[68 食事]や見世物([69 剣奴による戦い])などを提供し、[70 市民権]を持つかれらの取り込みを図った。